

令和６年度 学校評価（自己評価書・学校関係者評価書）

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 ★学校関係者評価を受けて
「学ぶ喜び」を実感させ、主体的・対話的な授業づくりを、基盤とした確かな学力を育成する	基礎基本の定着	・「にこにこトーク」を充実させ、話を聴く力の向上を図る。 ・「やればできる」を実感させ、基礎学力の向上を図るために全校漢字、算数チャレンジを計画的に実施する。	B	B	・毎週のにこにこトークの実践で、話し方、聴き方が少しずつ身についてきた。 ・各種チャレンジを計画的に実施し、子どもたちの基礎学力を図ることができた。 ・年間に複数回の問題解決的な学習を取り入れた。今後は、現職研修などで授業づくりの研修を更に深め、学校全体の授業改善を行う必要がある。	B	・授業や行事を参観する中で、子どもたちの発表する力が少しずつついてきていると感じた。話を聴く力も向上してほしい。 ・子どもたちが楽しいと思え、主体的に学習に取り組める問題解決的な学習を多く取り入れてほしい。	・常日頃から、聞き手に伝わる発言や発表ができるよう促し、支援していく。 ・学ぶ喜びが味わえる授業づくりや問題解決的な学習についての研修の機会を設け、授業を改善していくことで全体の質の向上を図る。
	問題解決的な授業づくり	・問題解決的な学習・体験的な学習・ICT機器の効果的な活用を組み合わせ、自らの意思で、判断・決定していく場面を意図的に設定する授業づくりを心がける。	B					
たくましい心を育成し、温かな気持ちでかわり合える学校・学級づくりに努める	居場所づくりと絆づくりの充実	・「自分から、相手を見て、笑顔で」のあいさつを習慣化する。 ・計画的な道徳授業や学級指導の実践等を通して、自己肯定感を高めるとともに、自己有用感を高める。	B	B	・挨拶は、いつでも誰にでも気持ちよくできるようなたらさかけていきたい。 ・道徳は計画的に行っている。自己肯定感や有用感を高める取り組みを全校体制で行う必要がある。 ・たてわり活動を通して、思いやる気持ちが高まってきた。たてわり活動や通学班における高学年の自覚を今以上に育みたい。	A	・挨拶はよくできている。相手意識をもち、更に気持ちのよい挨拶ができるよう期待している。 ・たてわり活動のよさを生かし、それぞれの学年が上手に関わり合いができるよう支援してほしい。	・道徳や特別活動などの教育活動を中心に、自己肯定感や自己有用感を育む活動をカリキュラムに設定し、実践する。 ・たてわり活動におけるそれぞれの学年の目ざす姿を明確にし、望ましい態度で参加できるよう、はたらきかける。
	異学年集団活動の活性化	・たてわり活動を中心とした常時活動の充実を図り、共感的人間関係を構築し、思いやりと感謝の心を育成する。	B					
安全で安心できる教育環境づくりに最善を尽くす	いじめ不登校の未然防止と早期対応	・全ての教職員で全ての子どもを見まもり、いじめ・不登校・虐待・問題行動に対して、組織として早期発見に努め、未然に防ぐ学校・学級づくりに努める。	A	A	・全ての職員で全ての子どもを見守る意識が高く、組織として対応できている。 ・安全教育については、年に１０回行い、意識を高めている。学校外での安全意識（登下校、ヘルメット着用など）も高めたい。 ・情報モラル教育において、どの学年で何を確実に身につけさせるのか、系統的に指導する必要がある。	A	・子どもたち一人一人をきめ細かく観察し、丁寧に対応できている。不登校については、まだできることを探してほしい。 ・安全・安心は大切だと思うので、今後も地域と一緒に指導や見守りに励んでほしい。	・学校だけでは解決できない事案については、SSWやSCなどの専門家と連携し、よりよいはたらきかけができるよう努める。 ・子どもたちの実態をよく観察し、情報モラル教育で身につけたい力を育んでいきたい。
	安全教育と情報モラル教育の充実	・安全教育や保育園との合同避難訓練等の体験活動を通し、「自分のいのちは自分で守る」ことができる力を伸長する。 ・情報モラル教育を毎学期実施し、場面に応じた適切な判断を育成しながら、子どもの情報活用能力を高める。	B					
近隣小中・地域との連携を深め、地域・保護者からの信頼と協力が得られるよう努める	小中連携教育の推進	・小中一貫（高豊中学校区）・３小連携（富士見・高根・豊南）による持続可能で効果的な教育交流をすすめる。	A	B	・小中連携教育の推進として小中一貫・３小連携が計画的に行えるよう、年間計画に位置づけられている。 ・地域との連携・協力を密にし、コミュニティスクールの準備に向け、魅力ある教育活動を開発していく必要を感じている。	A	・高豊中学校区は、合唱コンクールへの参加や中学生と６年生の交流会など、小中で決めた行事や活動があり、よく連携できているので、継続してほしい。	・地域の人・こと・ものを各学年のカリキュラムに明記し、地域の教育力を生かした人材バンクを整備し、充実した郷土学習が行えるようにしたい。
	地域に開かれた教育活動の推進	・家庭・地域との連携・協力を密にし、地域に開かれた魅力ある教育活動をより一層展開することで、信頼される学校づくりを推進する。	B					
教職員が心身ともに健康で、教育のプロとしての資質向上、働き方改革への高い意識をもち、チームとして学校を支える職場づくりに努める	授業力と資質向上	・学び合い、高め合う教職員集団を目指し、日々の授業改善のための研修を計画的に実施する。	A	A	・研修や授業研究などが計画的に実施されている。 ・相談しやすい職場の雰囲気があり、チームとして、問題解決に取り組み、協力する体制ができている。 ・支援員の配置により以前よりも教職員の負担は軽減した。更に子どもと向き合う時間を確保したい。	A	・自己評価や総合評価に高い評価がついていてすばらしいと感じた。今後も継続してよりよい教職員集団を目指し、温かい雰囲気の職場づくりに励んでほしい。 ・支援員を上手に活用してほしい。	・子どもたちにとって大切なことに力を注ぎ、慣習などで行っていることについては思いきって見直し、教職員が心身ともに健康でいられるようにしていく。 ・支援員の有効活用を更に推進していく。
	働き方改革の継続と推進	・何でも相談できる温かい職場づくりに努めるとともに、行事のもち方の工夫や会議の効率化など、個々のタイムマネジメントへの意識の向上を図る。 ・「チーム豊南」の協働体制と支援員の活用をすすめ、教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保に努める。	A					

【 自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない 】

【 総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価 】

【 関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない 】